

岩間 滉季

所属 地域教育文化学部 児童教育コース一年

派遣期間 2015年9月8日～9月21日

日本語教室での指導内容

日本語の授業は、平日は1日に90×2を朝夜の二回、土曜日は90×2を夜に一回という形で行っていました。授業の方法としては、ビギナークラスはいくつかのグループに分かれ、そのグループにつき一人日本人の学生がついて指導をし、アドバイスクラスは先生が全体に説明をし、それを日本人学生が補助しました。ビギナークラスの際は生徒の進度によって、やるものが変わります。例えば文法を勉強するグループや漢字を中心に学習するグループ等に分かれました。基本的には「みんなの日本語」という教科書を利用していました。ビギナークラスは、文法については教科書に書いてあることを例文を考えながら説明し、その後教科書の問題を解きました。漢字の指導は漢字の書き順を教え、読み方を一緒に練習し、意味も説明しました。(意味は日本語で理解できなかった場合は英語で説明しました。)教科書には漢字の形の意味(編やつくりの意味)もあったので生徒も楽しく理解できていました。アドバンスクラスでは現地の先生が教科書の内容を説明し、その後日本人学生が例を考えたり、ベトナム人学生が説明で分からなかったところの補足をしたりしました。生徒は習ったばかりの日本語で話しかけてくれたりして授業とはいえ楽しい時間でした。



日本語教室以外での現地での交流活動

ベトナムの学生はいつも私たちの世話をしてくれました。ご飯や買い物にも連れてってくれ、とても助かりました。ベトナムの伝統料理であるフォーを食べに行くときもここが美味しいと教えてくれたり、日本円からベトナムドンに両替するときもレートが良い場所を教えてくれたので充実したベトナムでの生活を送ることができました。



日曜や土曜の午前、平日の朝の授業と夜の授業の間は特に決まった予定がないので、その間にベトナムの文化に触れたり、観光地に連れていってもらいました。観光では百年以上に出来た大教会や、ベトナムの英雄であるホーチーミン氏の家などを訪れました。どこも日本とは全く違う雰囲気であり、ベトナムの文化に触れるとても良い機会でした。

プログラムに参加した感想

ベトナムにつき最初のうちは現地の学生を「外国の人」と見てしまい、どういう風に接すればいいかわかりませんでした。しかし、現地の学生にはそのような考え、様子はなく自分たちに積極的に話しかけてくれました。そうして会話を重ねていくうちにあまり日本の学生と変わらないことに気づきました。好きな映画や音楽の話をしました。結局文化や風習、言葉は違うけれど、おなじ大学生なのだと感じました。途中からはすっかり仲良くなり今でも連絡を取り合っています。

また、ベトナムに行って驚いたのは、生活の違いです。例えば交通などでバイクの量が目とよくテレビや本で目にすることがありましたが、いざ実際に目にとるとやはり迫力があって驚きました。百聞は一見に如かずという言葉がぴったりだと思います。食べ物、家、お店、道などどこを写真に撮っても一目で日本ではないと分かるほど日本では見られないものが多かったと感じました。ベトナムでの二週間の経験は一生、宝物にしていきたいです。

自分の目標の達成度や努力した経緯など

自分は今回の派遣の目標はベトナムの人と交流し、ベトナム人がどのような人でどのような生活を送っているのか考えることと、日本語を教えるということを通して他人に物を教えることのむずかしさを教育について学ぶものとして分かれば良いなとしていました。結果的にどちらの目標も達成できたと考えています。まず、ベトナムの生活については現地の学生が様々な場所に連れて行ってくれ、普段ご飯を食べている場所やみんなでお茶する場所を紹介してくれました。また教室では普段自然に使っている日本語を説明することにとっても苦労しました。もう少し日本語教育についても学習したいと思いました。

今後の展望

今後も海外に行く機会を積極的に作っていきたいと考えています。今回は二週間で、行く前は長いと考えていましたが、いざ行ってみると一瞬のように感じました。だから、次回海外に行く機会があれば、今回より長い期間行きたいです。そこで、日本では見られない考え方、文化を見つけられれば良いなと考えています。

